

※ 第1回 運営委員会 報告

4月24日、初の運営委員会が、名大空電研にて開かれました。

委員会はURSI-Vにひきつづいて公開で行なわれ、運営委員7名（田中、河鯉、鯉目、赤羽、森本、海部、田原）の他、多数の会員が参加して討議が交されました。議事は以下のとおりです。

i) 事務局について

総会で承認が得られれば、ここしばらくは東京におく。

事務局長森本、事務局員4名（海部、平林、加藤、太郎堂）

ii) 運営委員の任期

2年とする。改選と同時に、事務局も動かすのがよい。

iii) 総会について

宇電懇総会を、天文学会年会開催中の、5月13日、午後5時頃（天文学会総会終了後）より約2時間の予定で開く。

議題；・事務局、任期、その他会の事務的問題について

・45m推進委員会について

・その他の活動方針について

iv) 45m将来計画推進委員会について

・宇宙電波将来計画は、4月24日、4部・5部共同提案により学術会議総会で採択された。これによって、計画は公式ルートに乗る事になった。そこで、かねてから懸案の推進委員会を早急に作る必要がある。

・推進委員会の性格と仕事

①計画の推進（PR・交渉・はたらきかけ）

②研究者の総意を集め計画に反映

③研究者に資料・情報をながす

④学術会議とのパイプ

特に重要な点として、研究者の総意を学に反映できるようなものであること、決定したことが実行に移されるよう、公的なく（学術会議）性格を持つ必要があることが強調された。

・推進委

天文研

・学術会

学術会

①推進

②学術

は、学

・調査室

天文台

は必要

・推進委

原則と

電波

計は

v) 鹿島

・鹿島シ

になっ

期日

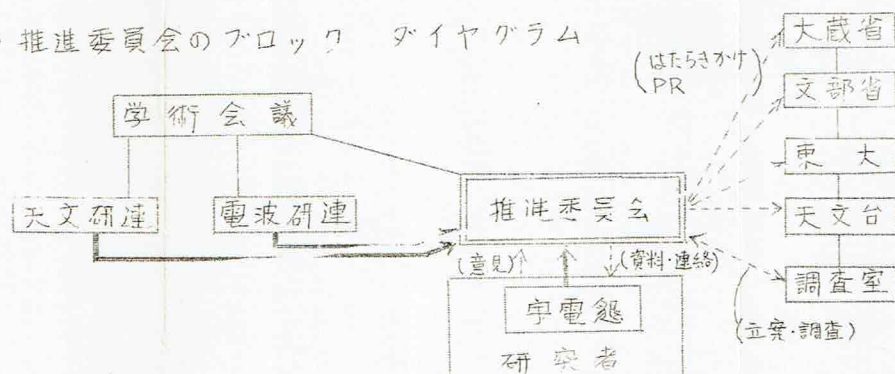
目的

・その他

提案さ

1970. 4. 25 (事務局; 東京天文台宇宙電波部)

。推進委員会のフローチャート



。学術会議との関係

学術会議による authorize は必要であるが、

- ① 推進委員会自体が多少の modify の後学術会議の一機関となるか、
 - ② 学術会議に別に建設準備委を作り、そこに代表を入れるか、
- は、学術会議とも相談し、秋までにきめていく。

。調査室との関係

天文台に調査室を作る話が非公式に出ている。いずれにせよ調査室は必要で、推進委員会はこれと密接に連絡をとって計画を進める。

。推進委員会の構成

原則として半数を選挙で選ぶ。運営委員会としての提案は、

電波研連 3名, 天文研連 3名, 宇電懇 6名
計 12名。 (宇電懇の6名は、5月総会で選出) (セキヨ)

V) 鹿島シンポジウム及びその他の活動

- 。鹿島シンポジウムが森本より提案され、宇電懇主催で行なうことになった。組織委員長 川尻、組織委員 平林、福井。

期日 9月・11月、鹿島にて、3~40人規模

目的 現在日本唯一の大口径である鹿島での radio astronomy が壁に当たっていると同時に、装置の大幅な改善・VLEBの可能性など、将来への材料も出つつあるので、この機会に鹿島における radio astronomy を衆知を集めて考える。

- 。その他、SAM等との共催による「観測天文学シンポジウム」が、海部より提案された。